

福島県男女共生センター「女と男の未来館」の紹介

2001年1月、二本松市に開設、職員23名(2014年現在)

三つの機能

情報機能; 男女共同参画についての情報、専門図書、資料の収集・提供。
調査研究や民間グループの研究支援

自立促進機能; 男女共同参画に関する講座・講演会の開催

交流機能; 個人や団体・グループの相互交流の支援

@広報誌未来館NEWS通算52号、宿泊施設、図書室、福祉機器展示

普及啓発活動に重点をおいた発信型の事業展開(開館から10年)



地域に根ざした課題解決型事業展開へ→→その矢先に東日本大震災

県民の交流活動の拠点、実践定活動への支援、地域に男女共同参画を
根づかせる

震災後の取組

□被災直後被曝スクリーニング施設に、双葉厚生病院の患者受け入れ、センターの一部が長期にわたって浪江役場となる→通常業務ストップ、男女共同参画センターとしての機能が制限される

□県民のいのち・くらしの安全が脅かされる非常事態の中で、地域住民に寄り添う支援活動に努める。 @課題を発見し、取り組む

避難所女性専用スペース運営支援→地域の女性団体との連携実践があったからできた

避難者の交流・居場所づくりの支援→センターボランティアが企画する

就労斡旋→以前からセンターが取り組んできた、企業からのオファー

実践につながる学びの提供→健康と放射能セミナー、大学との連携講座

支援者をつなぐ・課題を共有する事業の展開→支援者・支援団体の交流・情報交換

県内外へ発信する→全国に拠点があるから、全国の人たちとつながることができる

県内の自治体立センターをはじめとする市町村自治体との連携・協働

他機関・団体との連携・協働 支援者・組織相互の交流・連携 発信

この間明らかになったこと・課題

センターの経験から、女性が防災・支援・復興の担い手としての役割と能力を備えた存在であることが確認できた。**@命や暮らしを守ろうとする力、手の技、つながる力→力を引き出し、活かして実践する能力をみにつける参画の機会、学習・交流の場、情報提供が鍵**

震災後に男女共同参画センターが多様な組織・機関と連携しながら、その機能を発揮した。

*しかし課題は山積、今なお12万人避難、震災関連死がなくなる
男女共同参画による復興計画・地域づくりを進める→**そのための人材育成**

@女子防災力アップセミナー・未来館エンパワーメントセミナー、未来館トーク

困難を抱えた人たちへの支援 母子避難、男性等

支援者・支援団体の支援・ネットワーク

市町村担当部署との連携

被災者・被災支援者のエンパワーメントを支援する